

あ と が き

改正出入国管理法が2019年4月1日に施行され、外国人労働者の受け入れ拡大が目的で、その数を今後5年の間、34万人にまで増やす狙いである。大学での日本語教育には直接影響を与えないはずだが、様々なレベルでの日本語教師の需要が増えるなか、大学で行われている日本語教育の実践を発信することが重要であり、本論集がこのような場として機能してくれればと考える。

本号には研究ノート1本、報告4本が掲載されている。昨年度に続き授業での実践をまとめた貴重な報告やこれから研究論文につながるであろう研究ノート、豊富な内容となっている。投稿者の方々、そして査読者の方々に感謝を申し上げたい。皆様のご協力をなくしては本論集が成り立たないのである。

編集委員長として、全国雑誌と異なる大学の紀要や論集に対する評価が年々厳しくなっているなかで、今後投稿過程を明瞭化するために各カテゴリー（論文・研究ノート・報告）の基準を明確表示する必要があると感じており、次号に向けての課題にしたい。

2020年3月

グローバルコミュニケーション教育センター日本語部門
日本語教育論集編集委員長
VANBAELEN Ruth